

第三世代が考える

ヒロシマ「継ぐ展」

Hiroshima - 3rd Generation Exhibition : Succeeding to History

「想いをつなぐ」2018

戦争を体験していない世代がつくる、
参加して学べるヒロシマの企画展

| 会期 |

2018

8.10 (FRI)

~ 8.15 (WED)

入場
無料

10:00-19:00 ※最終日17:00まで

| 会場 |

せんだいメディアテーク 5F ギャラリーC

〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町2-1



総入場者数

広島サテライト会場	644 名
広島灯ろう流し会場	250 名
仙台北展会場	1,185 名



事業名 第三世代が考えるヒロシマ「」継ぐ展 2018

日時 広島サテライト会場 2018年7月29日(日)～8月5日(日)
 広島灯ろう流し会場 2018年8月6日(月)
 仙台北展会場 2018年8月10日(金)～8月15日(水)

会場 広島サテライト会場 CLiP HIROSHIMA - 1F イベントスペース
 広島灯ろう流し会場 継ぐ展ブース AT 原爆の子の像付近
 仙台北展会場 せんだいメディアテーク ギャラリー 3300 C

入場料 無料(※一部自由研究のワークショップなど有料)

助成 公益財団法人 仙台市市民文化事業団、公益財団法人 カメイ社会教育振興財団(仙台市)

協賛 株式会社ファンブ、株式会社 DMC 広島、株式会社メディアステーション、Palabra 株式会社、
 医療法人社団光仁会 梶川病院、株式会社 エル・シャン

後援 公益財団法人広島平和文化センター、仙台市、広島市、仙台市教育委員会、広島大学、
 桃山学院大学、中国新聞社、NHK 仙台放送局、TBC 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、
 KHB 東日本放送、河北新報社、朝日新聞仙台総局、産経新聞社東北総局、読売新聞東北総局、
 毎日新聞社仙台支局、日本経済新聞社仙台支局、仙台リビング新聞社、
 せんだいタウン情報 S-style、エフエム仙台、ラジオ 3FM76.2

協力 NPO 法人メディアージ、ac design、デジタルハリウッド STUDIO 渋谷・新宿・仙台・広島、
 CLiP HIROSHIMA、Peace Porter Project、とうろう流し実行委員会、ひろしまジン大学
 HIROSHIMASPEAKS OUT、路上芸術祭実行委員会



組織

広島大学、宮城学院女子大学、東北福祉大学、 デジタルハリウッド STUDIO 仙台・広島・渋谷の在卒業生などを含む約 100 名が参加

4年続けて参加している30代の中心メンバーを含め、広島・関西・東京・仙台から集まった約100名が企画制作に携わりました。教育機関と連携し、ボランティア募集を行ったところ多くの学生の応募がありました。

また、展示期間中にボランティア希望を申し出た方が、その場で読み聞かせスタッフとして参加する一面もありました。



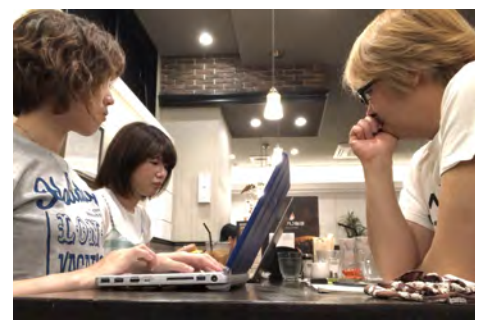


制作

教育機関と連携した企画制作とウェブサイトリニューアル

仙台会場の準備は、2017年から2年間かけて行いました。

デジタルハリウッドのOJTプログラムとして「とうろうに込めるメッセージ」「夏休み自由研究」「広島サテライト会場」のウェブサイトリニューアルを行い、宮城学院女子大学や広島大学、デジタルハリウッド STUDIO 仙台・広島といった現地のボランティアスタッフのご協力を得て展示物の企画制作を進めていきました。







制作

ヒロシマの記憶を継ぐ人インタビュー取材（3月・4月）

3月と4月には「ヒロシマの記憶を継ぐ人」のインタビュー取材を仙台と広島で行いました。インタビューの英訳はHIROSHIMA SPEAKS OUT さんにご協力いただきました。

インタビュー協力：被爆者 兒玉 光雄さん、森 匡世さん、木村 緋紗子さん、ピースボランティア 西村 宏子さん、広島平和記念資料館 学芸員 土肥 幸美さん、被爆体験伝承者 1 期生 山岡 美知子さん

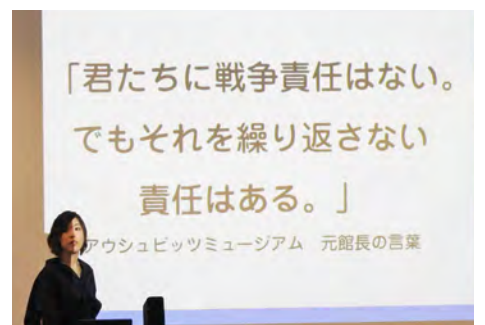




新潟県光晴中学校 2年生に向けての授業（1月）

広島大学「ひろしま平和共生リーダー概論」の1講座を担当（6月）

1月には新潟県光晴中学校の2年生 125名に向けて企画展についての特別授業を行い、6月には昨年から携わっている広島大学の「ひろしま平和共生リーダー概論」の1講座を担当致しました



第三世代が考える

ヒロシマ「」継ぐ展...

Hiroshima - 3rd Generation Exhibition : Succeeding to History

「広島サテライト会場」

戦争を体験していない世代がつくる、
参加して学べるヒロシマの企画展

| 会期 |

2018

7.29 (SUN)

~ 8.5 (SUN)

入場
無料

10:00-18:00 ※ 7/31 (火) 休館

| 会場 |

CLiP HIROSHIMA 1F イベントスペース

〒730-0053 広島市中区東千田町 1-1-18

主催：ヒロシマ「」継ぐ展 実行委員会 助成：公益財団法人 仙台市民文化事業団、公益財団法人 カメイ社会教育振興財団
後援：公益財団法人 広島平和文化センター、仙台市、広島市、仙台市教育委員会、広島大学、桃山学院大学、中国新聞社、NHK 仙台放送局
TBC 東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB 東日本放送、河北新報社、朝日新聞仙台総局、産経新聞社東北総局、読売新聞東北総局
毎日新聞社仙台支局、日本経済新聞社仙台支局、仙台リビング新聞社、せんだいタウン情報 S-style、エフエム仙台、ラジオ3FM76.2
協力：NPO 法人メディアージ、デジタルハリウッド STUDIO、CLiP HIROSHIMA、Peace Porter Project、とろろ流し実行委員会
HIROSHIMA SPEAKS OUT、路上芸術祭実行委員会、ひろしまじん大学、Lingua Franca、ワールドピースゲーム、ac design

CLiip
CLiP HIROSHIMA



<http://tsuguten.com/>

企画展に関するお問い合わせは tsuguten2018@gmail.com



第三世代が考えるヒロシマ「」継ぐ展 とは



戦争を体験していない世代(第三世代)が、「ヒロシマ」を継いでいく方法を考える企画展です。2015年から東京在住の30代が中心となり、若い世代や親子連れに向けた平和学習の場所を考え「体験」をともなった参加型の形をとりながら、携わった人たちの自主性を促す学びの場をつくっています。

「継ぐ展2018」本展会場は、東京(2015・2017)・横浜(2016)を経て、2018年は東北地方初の宮城県仙台市にあるせんだいメディアテーク(8月10日~8月15日)で行われます。広島サテライト会場では、常設展やイベントを通して、広島の人たちの考えを集め、展示の一部を仙台会場へ移動して想いをつなげます。
※企画展タイトル名の「」は、関わった人たちが心で感じたことを「」に込め、それぞれの方法で未来に継いでほしいという思いを込めています。

イベントのご紹介 | 参加して考える映画上映会やワークショップ

8/3 金



『この時代の双葉社』『この世界の片隅に』製作委員会

アニメ映画「この世界の片隅に」上映会

日本が戦争の中にあつたころ。軍港の街・広島のみにお嫁にやってくる18歳の娘、すずさんは、見知らぬ土地で健気に毎日の生活を紡いでいく。戦火にさらされ大切なものを失っても、前を向き生活を続けるすずさんの日々を描く。

【日時】8/3(金) (上映時間:2時間9分)
1回目 開場 10:00、上映 10:30~
2回目 開場 14:00、上映 14:30~
【参加費】無料 【定員】各回100名

【協賛】広島トヨペット株式会社、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、三菱地所レジデンス株式会社、三井不動産レジデンシャル株式会社、JR西日本プロパティーズ、株式会社トータテ都市開発、広島電鉄株式会社、一般社団法人hitoto広島タウンマネジメント

【トークショー&ワークショップ】

継ぐ展代表の久保田涼子が「継ぐ展をはじめたきっかけ」をお話するトークショーと、来場者の方々に参加していただきながら継承について考えるワークショップを開催。

【日時】8/3(金) 13:00~
●久保田 涼子(「ヒロシマ」継ぐ展実行委員会代表)

8/4 土 5日 日



広島を学ぶモチーフを組み合わせてオリジナルバッグやTシャツをつくらう

折り鶴やキョウチクトウ、灯ろう流しといった、広島に関連するモチーフをバッグやTシャツにプリントしたり、消しゴムはんこを捺したりしながら、イラストの意味を学んでいきます。作ったグッズはお持ち帰りいただけます。

【日時】8/4(土)、5(日) 11:00-16:00

●ライブプリント: 株式会社デイズ

●消しゴムはんこ提供: 津久井 智子

【料金】2,000円(Tシャツ)

1,000円(トートバッグ、Tシャツキッズサイズ)

800円(A4バッグ)

500円(巾着)

8/4 土



紙の恐竜展

2018 7月21日 - 8月19日
CLIP HIROSHIMA

紙の恐竜展制作者トークショー 「紙の恐竜の制作を通してヒロシマを伝えていく」

継ぐ展と同時開催の「紙の恐竜展」制作者のトークショー。戦後の広島で祖母からピカの話聞きながら育った。こども造形教室で出会った子どもたちの影響で恐竜に興味を持って研究を進め行くうち、人間の勝手な思考や行動が戦争や環境破壊に繋がっていることに気づく。紙の恐竜制作を通して次世代に継ぐ活動をしている。



【日時】8/4(土) 11:00~12:00

●ゲスト: 亀井 由美子(カメイ造形研究会)

【参加費】無料

8/5 日



「おりづると、ヒコキキ」 ~川本省三さんにさく、ヒロシマのはなし~

原子爆弾によって家族と離れ離れになり、原爆孤児として生き延びた川本さん。焼け野原を家族と離れ、ひとり生きてきた小さな子どもたちは、どんな街を見てきたのでしょうか。川本さんが幼い頃、お母さんに教えてもらった紙ヒコキキと一緒に折りながら、川本さんの人生を聞いたり、お互いの話をしたりして過ごします。川本さんの暮らす街、私たちの暮らす街、ヒロシマ。今改めて街に刻まれた記憶に触れ、街のあり方、私たちのこれからについて語り合しましょう。

【日時】8/5(日) 13:00~15:00

●ゲスト: 川本省三

(被爆体験証言者:(公財)広島平和文化センター委嘱)

【参加費】無料 【定員】20名

【共催】ひろしまシン大学

イベントに関するお問い合わせ | CLIP HIROSHIMA TEL. 082-567-5011

仮想空間にあなたの想いを込めた
灯ろうが流せます。



灯ろうに込める
メッセージ
Message for peace
Floating Lantern

<http://message.tsuguten.com>

※PC・スマートフォン、いずれも利用可

常設展

- ・あなたができる平和へのアクション
- ・みんなの“考える”声
- ・灯ろうに込めるメッセージ
- ・ヒロシマの記憶を継ぐ人インタビュー展示
- ・ヒロシマ関連絵本・書籍コーナー
- ・継ぐ展の軌跡パネル、アーカイブ動画



灯ろう流し会場 継ぐ展ブース

灯ろう流し会場の中で、仮想空間の川に流された灯ろう流しの投影や、被爆者や伝承者にインタビューを行ったパネルなどを展示します。

【日時】8/6(月) お昼過ぎから

【会場】原爆の子の像付近 継ぐ展ブース

〒730-0811 広島県広島市中区中島町1

アクセス



CLIP HIROSHIMA [1Fイベントスペース]

〒730-0053 広島県広島市中区 東千田町1丁目1-18

TEL: 082-567-5011

企画展全体に関するお問い合わせ先

TEL: 080-1916-8638 (継ぐ展実行委員会)

MAIL: tsuguten2018@gmail.com

<http://www.facebook.com/tsuguten/>

[@h_tsuguten](https://twitter.com/h_tsuguten)

<http://www.instagram.com/tsuguten/>



広島サテライト会場

2018年7月29日（日）～8月5日（日）来場者数計 644名
CLiP HIROSHIMA 1F イベントスペース

広島サテライト会場は、昨年からご協力いただいている CLiP HIROSHIMA と共同で制作を行いました。設営・運営スタッフには広島大学の学生や有志ボランティア11名が参加しました。常設展は、広島の記憶を継ぐ人インタビューパネル展示を中心に、あなたができる平和へのアクション、継ぐ展スタッフの声、灯ろうに込めるメッセージ、書籍コーナー、継ぐ展の軌跡パネルなどを展示しました。会場では、お客様がすすんで折り鶴を折ってくださったり、原爆の絵本を読んでいたお子様が自ら両親に戦争に関する質問をするという積極的な場面もありました。





8/1 はタイ王国内務省の視察がありました。113 名の方々に、継ぐ展のコンセプトや歴史について英語のスライドを使って説明をしました。



8/3 はアニメ映画「この世界の片隅に」を2回上映し、継ぐ展代表のトークショーも行いました。

8/4、5の週末は、株式会社デイズ、消しゴムはんこ作家津久井智子さんと協力のもと広島を学べるモチーフを組み合わせてオリジナルバッグやTシャツをつくるイベントを開催しました。



8/4には継ぐ展と同時期開催の「紙の恐竜展」制作者亀井由美子さんによるコラボトークショーを行いました。

8/5最終日はひろしまジン大学と共催し「おりづると、ヒコーキ」〜川本省三さんにきく、ヒロシマのはなし〜で、被爆者の川本省三さんから原爆、戦争、原爆孤児のお話を伺いました。どの企画も小さいお子様から年配の方まで沢山の方々にご参加いただきました。





広島灯ろう流し会場

2018年8月6日（月）来場者数計 250名

継ぐ展ブース AT 原爆の子の像付近

広島市平和記念公園内に設けられる継ぐ展ブースでは、広島を記憶を継ぐ人インタビュー 27名分のパネル展示、継ぐ展スタッフ参加者の声の展示、そして、メインとなる「とうろうに込めるメッセージ」の参加型展示の3つを行いました。広島大学の学生をはじめとする継ぐ展ボランティアスタッフ 13名と、株式会社ファンブ、CLIP HIROSHIMA、株式会社デイズ、とうろうに込めるメッセージの開発に携わった桃山学院大学の櫻井雄大研究室あわせて計 20名で設営を行いました。





灯ろう流しの待機列近くにブースが設けられたこともあり、夜まで途切れることなくたくさんの方々にお立ち寄り頂きました。特に海外のご来場者の方が例年以上に多かったのが印象的でした。RCC ラジオカーの取材もありました。夕方 18 時にはインターネットを通して 7 月に募集をして届けられた 20 名分のメッセージを、スタッフが灯ろうに代筆して元安川へ流しました。8 月 6 日の広島は、国籍や、年齢、性別を超えて平和を祈る場所になっていると感じました。





第三世代が考える

ヒロシマ「継ぐ展」

Hiroshima - 3rd Generation Exhibition : Succeeding to History

「想いをつなぐ」

戦争を体験していない世代がつくる、
参加して学べるヒロシマの企画展

| 会期 |

2018

8.10 (FRI)

~ 8.15 (WED)

入場
無料

10:00-19:00 ※最終日17:00まで

| 会場 |

せんだいメディアテーク 5F ギャラリーC

〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町2-1

主催：ヒロシマ「継ぐ展」実行委員会 助成：公益財団法人 仙台市民文化事業団、公益財団法人 カメイ社会教育振興財団
後援：公益財団法人 広島平和文化センター、仙台市、広島市、仙台市教育委員会、広島大学、桃山学院大学、中国新聞社、NHK仙台放送局
TBC東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB東日本放送、河北新報社、朝日新聞仙台総局、産経新聞社東北総局、読売新聞東北総局
毎日新聞社仙台支局、日本経済新聞社仙台支局、仙台リビング新聞社、せんだいタウン情報 S-style、エフエム仙台、ラジオ3FM76.2
協力：NPO法人メディアージュ、ac design、デジタルハリウッド STUDIO 渋谷・新宿・仙台・広島、CLIP HIROSHIMA、Peace Porter Project
とうろう流し実行委員会、HIROSHIMASPEAKS OUT、路上芸術実行委員会、ひろしまじん大学、ワールドピースゲーム、Lingua Franca



<http://tsuguten.com/>

企画展に関するお問い合わせは tsuguten2018@gmail.com

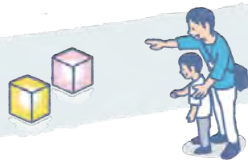
企画展示や
参加して学べる
ワークショップ

第三世代が考えるヒロシマ「」 継ぐ展 とは

戦争を体験していない世代(第三世代)が、「ヒロシマ」を継いでいく方法を考える企画展です。2015年から東京在住の30代が中心となり、若い世代や親子連れに向けた平和学習の場所を考え「体験」をともなった参加型の形をとりながら、携わった人たちの自主性を促す学びの場をつくっています。

本展は、東京(2015・2017)・横浜(2016)を経て、2018年は東北地方初の仙台開催となります。企画展タイトル名の「」には、関わった人たちが心で感じたことを「」に込め、それぞれの方法で未来へと継いでほしいという想いを込めています。

※ヒロシマ=被爆都市として世界恒久平和の実現をめざす都市であることを示す。



8/11-15



自由研究サポート教室

[日時] 8/11(土)、8/12(日) 1回目 11:30~ / 2回目 16:00~
8/13(月)、8/14(火) 1回目 11:00~ / 2回目 16:00~
8/15(水) 1回目 11:00~
[参加費] 500円(模造紙、折り紙などの材料費込)
[定員] 各回5名(予約優先)

8/10-11



被爆者 梶本淑子さんとお話しよう

[日時] 8/10(金) 11:00~12:00
8/11(土) 14:00~15:00
[ゲスト] 梶本淑子(被爆証言者)
(公財)広島平和文化センター委嘱
[参加費] 無料 [定員] 各回30名(予約優先)

8/10



被爆アオギリの木のお話を聞いて
チョークで葉を描こう

[日時] 8/10(金) 13:00~17:00
[ストリートペインター] 松本かなこ
[ギター弾き語り] 芳晴 [参加費] 無料
※どなたでもご参加いただけます

8/10



「絵で読む広島原爆」原画作家
ギャラリートーク

[日時] 8/10(金) 18:00~19:00
[ゲスト] 西村繁男(絵本作家)
[参加費] 無料
[定員] 20名(予約優先)

8/11-12



広島を学べるイラストを組み合わせて
オリジナルバックや巾着袋をつくろう

[日時] 8/11(土) 12:00~17:00
8/12(日) 12:00~17:00
[参加費] 1,000円(トートバッグ)
800円(A4バッグ) / 500円(巾着)
[消しゴムはんこ提供] 津久井智子
[ライブプリント] 株式会社デイズ

8/11-12



被爆体験伝承者 橘原 泰一さんと
展示をまわろう

[日時] 8/11(土) 10:15~11:15
8/12(日) 10:15~11:15
8/12(日) 14:00~15:00
※最終回はお話が中心です。
[ゲスト] 橘原泰一(被爆体験伝承者)
(公財)広島平和文化センター委嘱
[参加費] 無料 [定員] 各回15名(予約優先)

8/13-15



被爆体験伝承者 青木 圭子さんと
展示をまわろう

[日時] 8/13(月) 14:00~15:00
8/14(火) 14:00~15:00
8/15(水) 14:00~15:00
※最終回はお話が中心です。
[ゲスト] 青木圭子(被爆体験伝承者)
(公財)広島平和文化センター委嘱
[参加費] 無料 [定員] 各回15名(予約優先)

「継ぐ展オリジナル自由研究ツール 2018」

「ヒロシマを知り、
平和について
考えてみよう!」



自由研究ツールをネットからダウンロードして、
答えを企画展会場で探してみよう!

<http://tsuguten.com/kenkyu>

- Q. 8月6日に広島でどうろう流しをするのはなぜでしょう?
- Q. 広島・長崎以外で、原爆の投下目標だったのはどこでしょう?
- Q. 原爆の後遺症にはどんなものがありましたか?
- Q. 原子爆弾が落とされる前、平和記念公園の場所にはなにがありましたか?
- Q. 広島復興には10年以上かかったと言われています。それはなぜでしょう?
- Q. 戦争は何が原因で起こると思いますか?

常設展

- ・被爆建物から見るヒロシマ写真展
- ・『絵で読む広島原爆(福音館書店)』原画展
- ・広島原爆資料パネル・被爆瓦・資料展示
- ・ヒロシマの記憶を継ぐ人インタビュー展示
- ・ヒロシマ関連書籍コーナー
- ・灯ろうに込めるメッセージ
- ・みんなの"考える"声

仮想空間にあなたの想いを込めた
灯ろうが流せます。



灯ろうに込める
メッセージ

Messages for peace
Floating Lantern

<http://message.tsuguten.com>

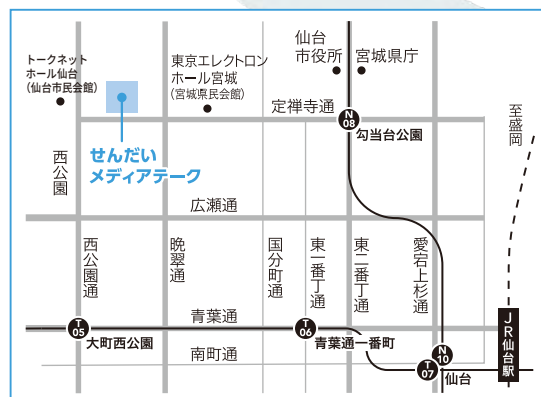
※PC・スマートフォン、いずれも利用可

<http://www.facebook.com/tsuguten/>

[@h_tsuguten](https://twitter.com/h_tsuguten)

<http://www.instagram.com/tsuguten/>

企画展全体に関するお問い合わせ先
TEL.080-1916-8638 (継ぐ展実行委員会)
MAIL. tsuguten2018@gmail.com



アクセス

せんだいメディアテーク 5F ギャラリーC
〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1
TEL:022-713-3171

【地下鉄】

南北線勾当台公園駅下車、「公園2」出口から徒歩6分。
東西線大町西公園駅下車、「東1」出口または「西1」出口から徒歩13分。
東西線青葉通一番町駅下車、「北1」出口から徒歩15分。

【バス】

仙台市営バス 仙台駅前-60番(仙台TRビル前、地下鉄仙台駅「中央2」出口前)のりばから「定禅寺通市役所前」経由由交通局
大病院」行き(系統番号がJまたはXで始まるバス)で約10分、メディアテーク前下車。

予約優先のイベントは <http://tsuguten.com/event/> もしくはTEL.080-1916-8638よりお申し込みください。



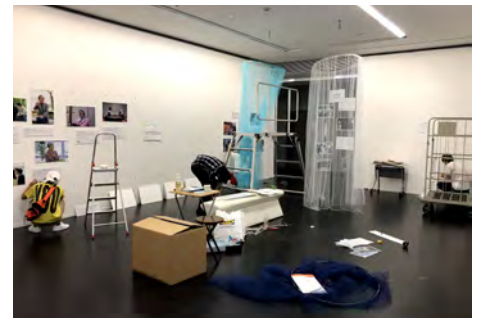
仙台北展会場

2018年8月10日（金）～15日（水）来場者数計 1,185名
せんだいメディアテーク ギャラリー 3300C

せんだいメディアテークの設営には20名が携わりました。

来場者は例年にも増して親子連れが多く、お盆時期と重なった影響か、家族3代で来られた方もいらっしゃいました。

「なかなか広島に行けないので、いい機会だと思い、子供と学びに来ました」という自由研究サポート教室に参加された方や、「あの日のことは二度と語りたくないと思ったけど、今日ここにきて誰かに伝えたいと思った。」とおっしゃる広島出身の90代の男性の姿もありました。





NHKをはじめとする仙台のテレビ局5社、ラジオ1社、新聞社3社など各種メディアが企画展を取りあげてくださり、そこから情報を知り来られた方が多くみられました。
また、震災の継承を行われている施設関係者の方々に沢山お声がけいただき、今後の共催企画にもつながる機会を得ることができました。





来場者として参加された広島出身の女性が当日飛び入りで読み聞かせボランティアになる姿や、ずっと平和活動に携わりたいと思われていた仙台在住の20代の女性が来年度のボランティアを申し出る一面もありました。初めて東北開催を行い、広島から離れている場所だからこそ生まれる関心の高さを肌で感じ、今後も地方での企画展を展開していきたいと思いました。



HIROSHIMA 継ぐ展

会場マップ



継ぐエリア

仮想空間の川に灯ろうを流し、平和へのメッセージを広島へ届けることができます。

<http://tsuguten.com/message/>



聞くエリア

被爆者や、被爆体験伝承者など計27名を取材したインタビューパネルと冊子、仙台ボランティアが継ぐ展を通して考えたヒロシマと震災の共通点を展示しています。



考えるエリア

戦争や平和に対する他の人の考えを読んだり、これからできそうなピースアクションを投票したりして、自分の考えを深めることができます。



アオギリ広場

自由研究サポート教室や、被爆アオギリの木のお話を聞いてチョークで葉を描くワークショップ(8/10)、広島を学べるイラストを組み合わせてオリジナルバックや巾着袋をつくるワークショップ(8/11~8/12)などを開催しています。



学ぶエリア

広島平和記念資料館提供のパネルや、被爆建物の比較写真、被爆瓦などを展示しています。

ヒロシマの絵本、書籍コーナーもあります。



知るエリア

絵本作家 西村繁男さんの『絵で読む広島原爆(福音館書店)』の原画と、継ぐ展の歴史を展示しています。

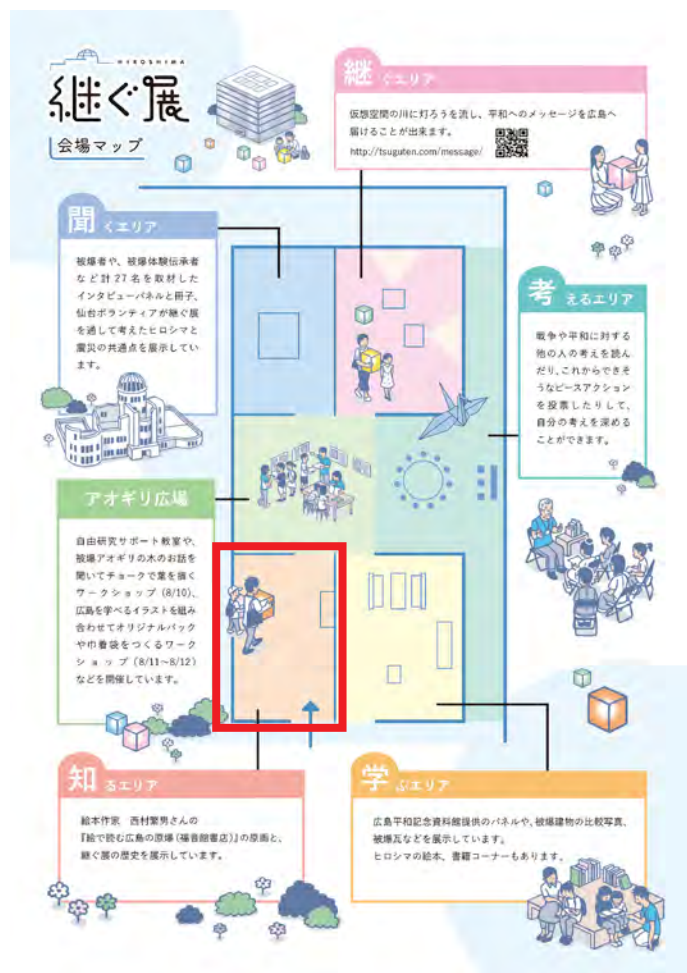




仙台北展会場（知るエリア）

『絵で読む広島原爆（福音館書店）』原画展 継ぐ展の歴史

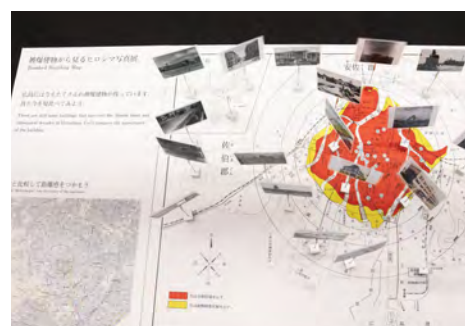
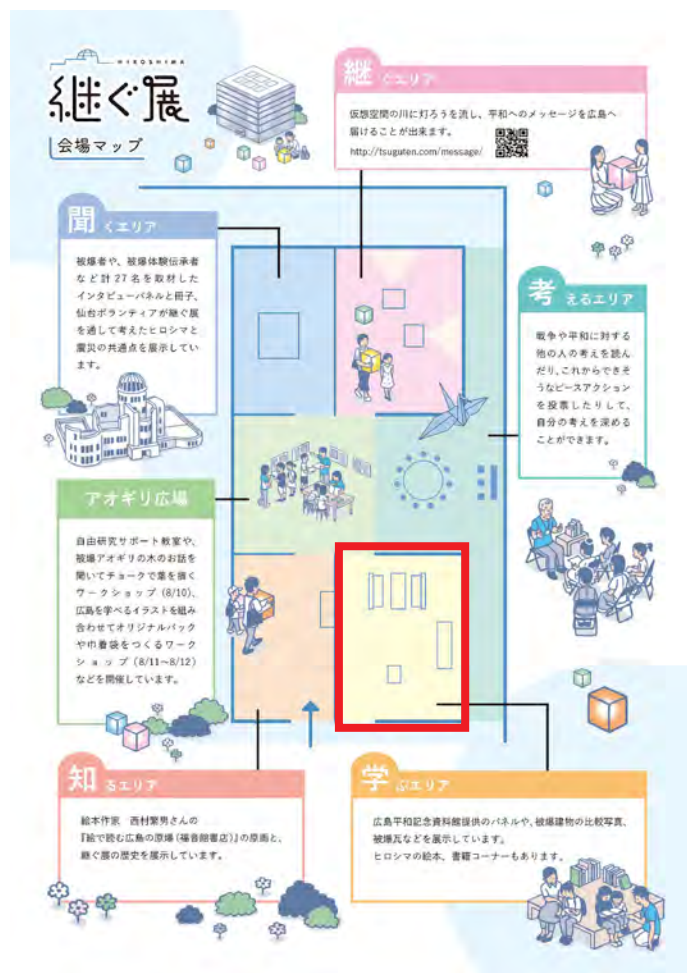
「知るエリア」では、絵本作家 西村繁男さんの作品『絵で読む広島原爆（福音館書店）』の原画を展示し、継ぐ展の4年間の歴史をパネルと動画で紹介しました。



仙台本展会場（学ぶエリア）

被爆建物から見るヒロシマ写真展 広島原爆資料パネル / 被爆資料展示 広島関連書籍コーナー

「学ぶエリア」では広島市や広島平和記念資料館から提供された資料・パネルを中心に展示を行い、被爆建物の地図や書籍コーナーを設けて学びを深める空間をつくりました。自由研究ツールを持ちながらパネルに向き合う子どもたちの姿が毎日見られました。爆心地からの距離を仙台の地図と比較した展示は「わかりやすいし、共感がしやすいですね。」と度々感想を頂きました。「書籍コーナーでは毎日絵本の読み聞かせが行われ、小さいお子さんを連れた家族が参加されていました。



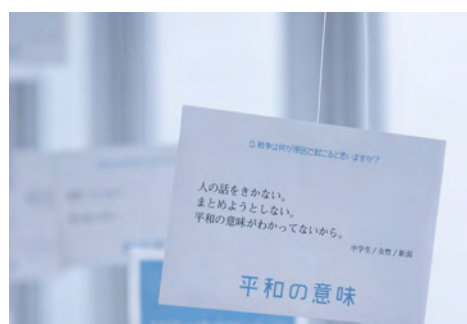
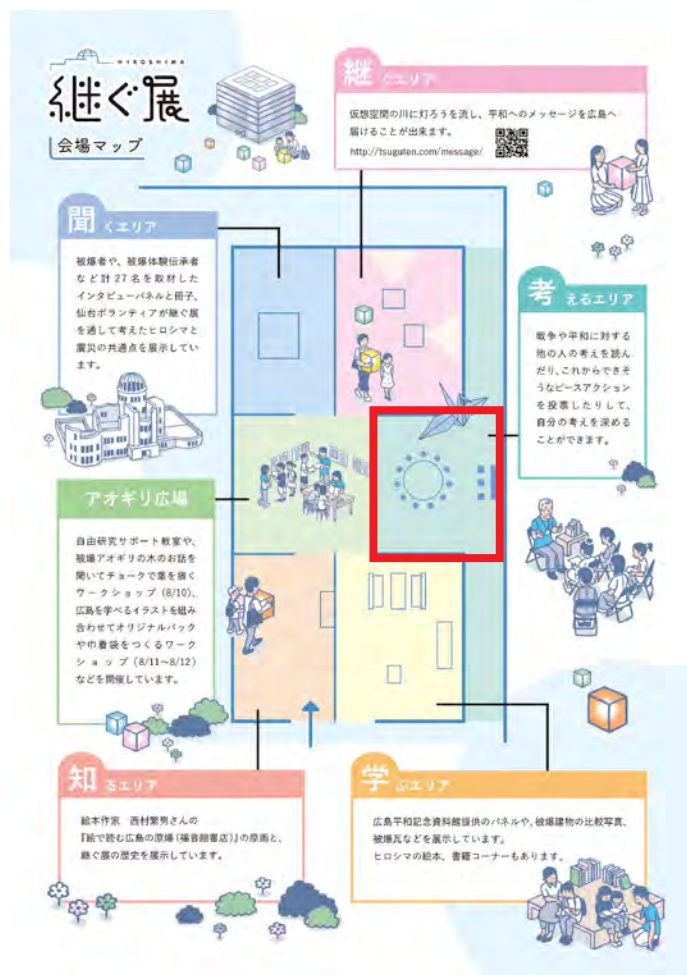




仙台北展会場（考えるエリア）

あなたが出来る平和へのアクション・ みんなの考える声・継ぐ展スタッフの声

「考えるエリア」では、自分にもできる平和へのアクションを折り鶴で投票したり、企画展に携わった人たちの声や意見を読み、自分の考えや想いを書いて展示をする来場者参加型の展示を設けました。





折り鶴を折るコーナーは、年齢や国籍を超えて、コミュニケーションをとりながら対話を行う場所になっていました。

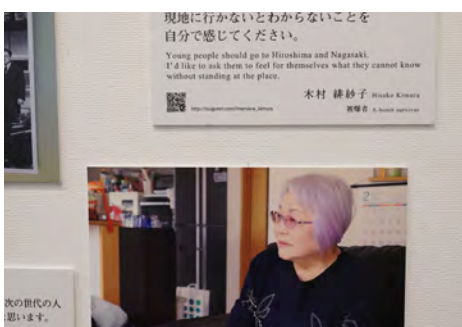




仙台北展会場（聞くエリア）

ヒロシマの記憶を継ぐ人インタビュー展示・ヒロシマと震災「継ぐ」について考える

「聞くエリア」では、被爆者の方をはじめ、広島市被爆体験伝承者や伝承者を目指している方など計 27 名を取材したインタビューパネルを展示しました。また、仙台ボランティアが企画展を通して考えた「震災とヒロシマの継承についての共通点」をミニパネルで展示しました。

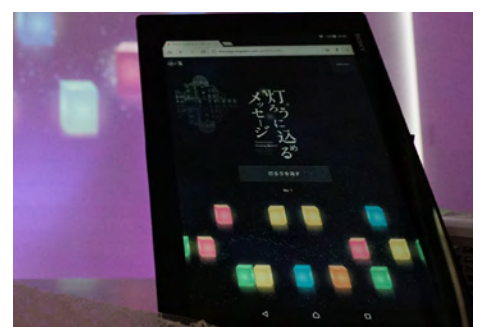
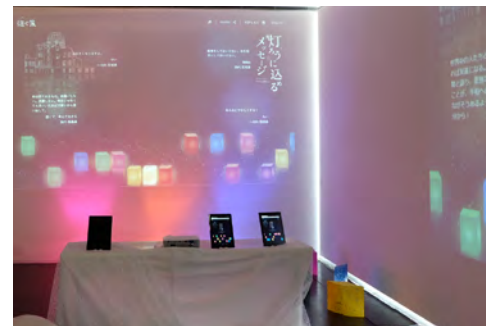
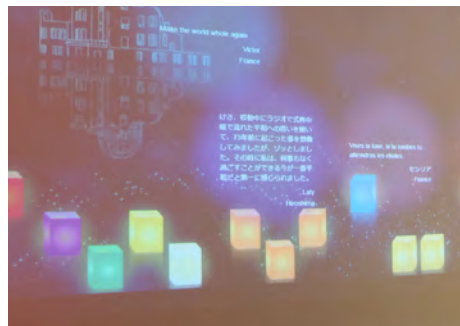
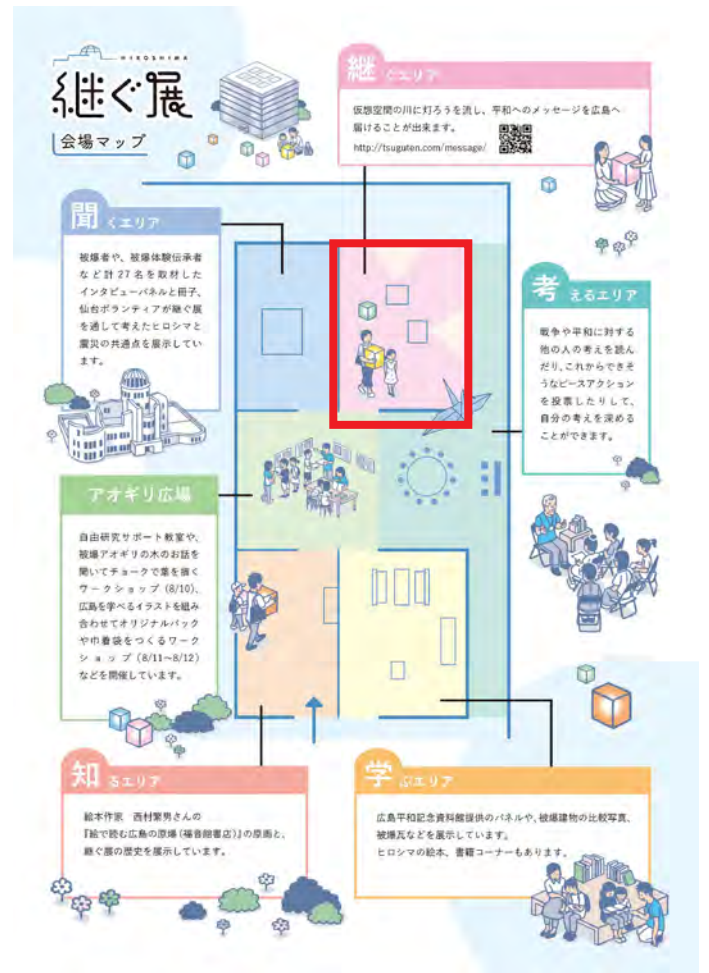




仙台北展会場（継ぐエリア）

灯ろうに込めるメッセージ

「継ぐエリア」では、1部屋全体を使って平和へのメッセージを込めたとうろうを仮想空間の川に流すプロジェクトを行いました。震災の「継承」と重なった方が多く見られ、空間いっぱいに広がるメッセージを長い間で覧になれる方もいらっしゃいました。





仙台北展会場（イベント）

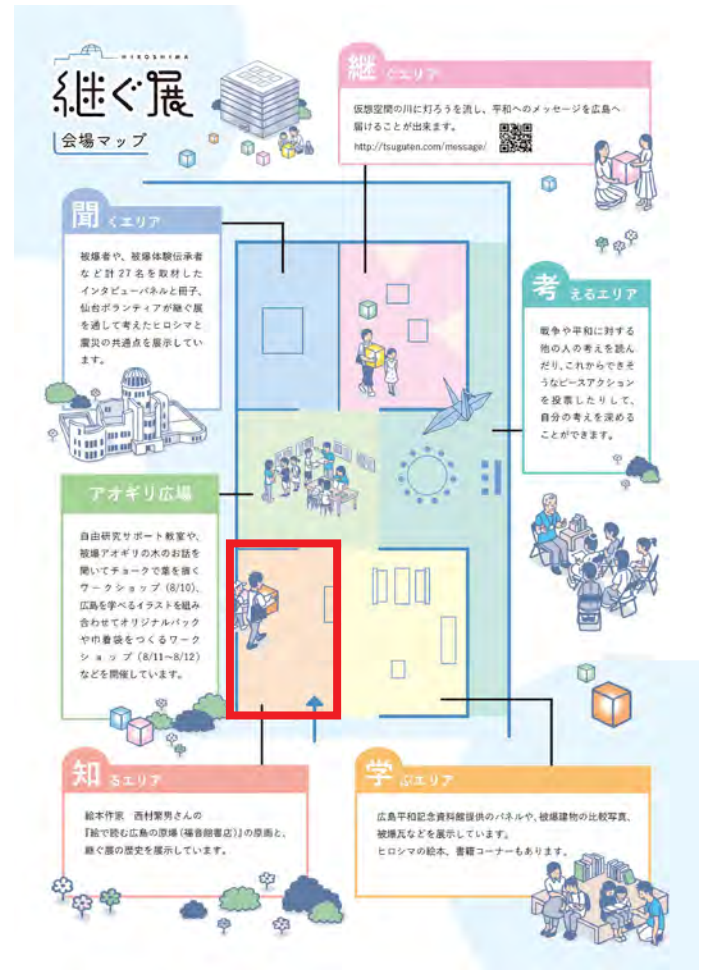
8/10（金）～8/11（土）

被爆者 梶本淑子さんとお話しよう

被爆者の梶本淑子さんとお話をする時間を2日間にわたり設けました。

台風の影響により、急遽サテライト会場のCLIP HIROSHIMAからインターネットを通じて中継を行う形になりましたが、来場者に向けて力強くご自身の被爆体験をお話してくださいました。

来場者から「今の時代に私たちが出来る平和のアクションはなんでしょう」という問いに、梶本さんが「まずは、今日聞いたことを誰かに伝える『伝え人』になってください」と答えられていたのが印象的でした。



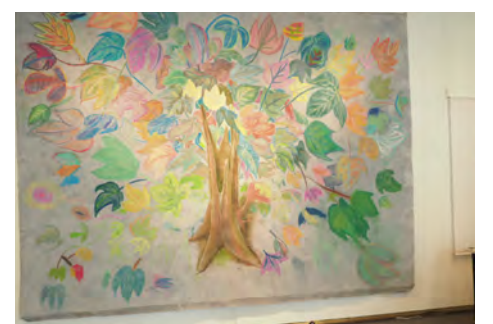
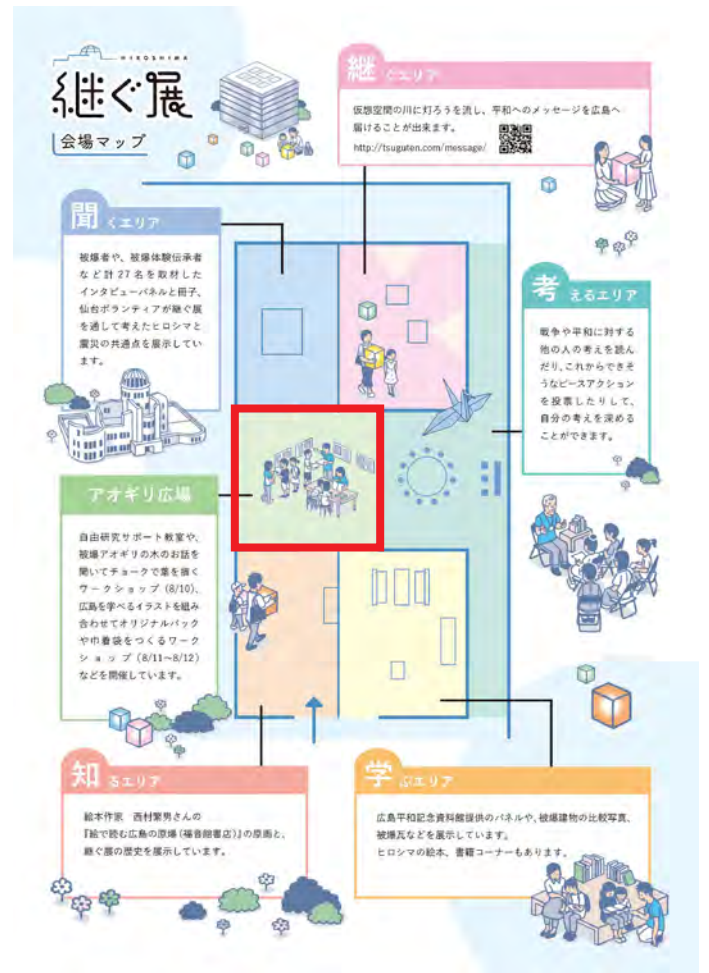


仙台北展会場（イベント）

8/10（金）被爆アオギリの木のお話を聞いてチョークで葉を描こう

「被爆アオギリの木のお話を聞いてチョークで葉を描くイベントでは、芳晴さんが絵本の弾き語りをしてください、8月6日の出来事を乗り越えて力強く生き続けたアオギリの木について伝えて下さいました。

その後、ストリートペインター松本かなこさんの指導のもと、参加者全員でチョークでアオギリの葉を描いていきました。カンバスいっぱいに葉が描かれたアオギリの作品は、2日後に展示物として展示されました。





仙台北展会場（イベント）

8/10（金）

「絵で読む広島原爆」原画家 ギャラリートーク

東京から「絵で読む広島原爆」原画家 西村繁男さんをお招きしてギャラリートークを行いました。

原画を描かれた経緯や背景を来場者の方々にお話していただきました。仙台の方はもちろん、広島に住んでいたことがある方など老若男女問わず西村さんの語りに耳を傾けていました。





仙台北展会場（イベント）

8/11（土）～8/12（日）

被爆体験伝承者 榎原 泰一さんと展示をまわろう

ヒロシマピースボランティアとして9年間ガイドをされている榎原 泰一さんが被爆の実相について展示資料を周りながら解説を行うツアーを2日間設けました。2日目の午後は、被爆体験伝承講話を行い、被爆の実相についてスライドを中心に話をさせて頂きました。参加者の方は皆真剣に耳を傾けていらっしゃいました。

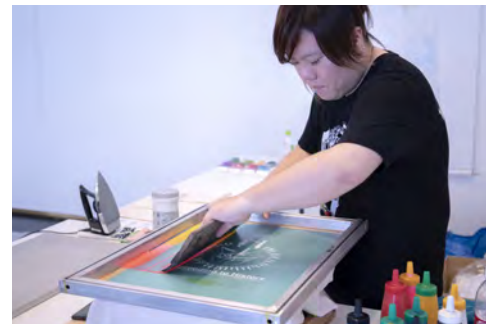
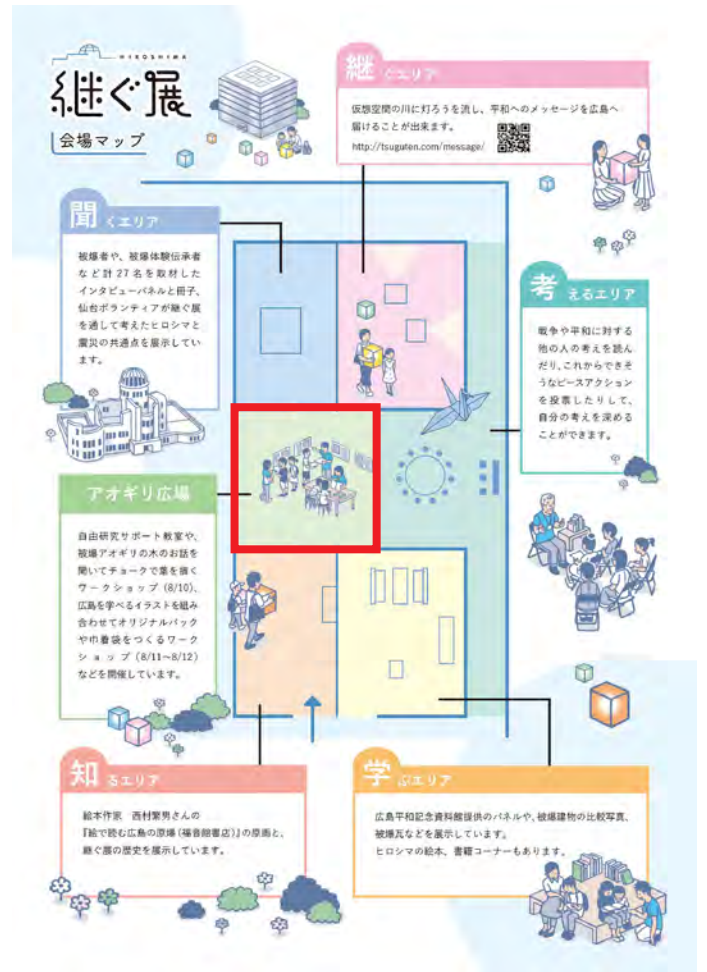




仙台北展会場（イベント）

8/11（土）～8/12（日） 広島を学ぶイラストを
組み合わせてオリジナルバックや巾着袋をつくらう

株式会社デイズ、消しゴムはんこ作家津久井智子さんのご協力を
を得て、土日限定でオリジナルバッグや巾着をつくるイベント
を行いました。来場者の方は、折り鶴や灯ろう流しといった広
島に関連するイラストをバッグにプリントしたり、消しゴムは
んこを捺したりしながら、イラストの意味を学んでいました。

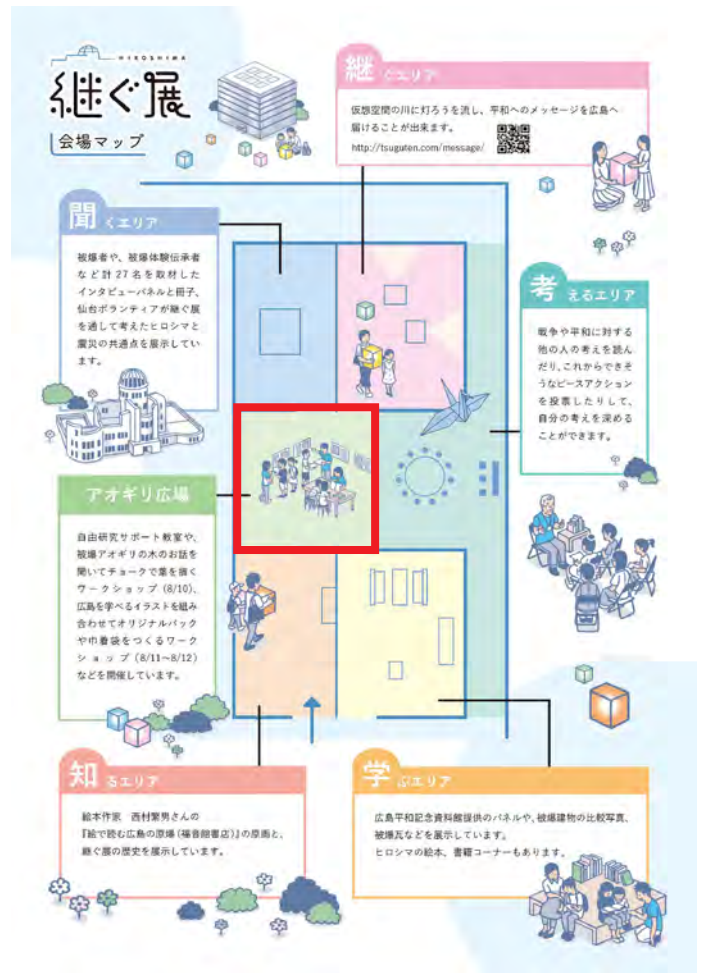




仙台北展会場（イベント）

8/11（土）～8/15（水） 自由研究サポート教室

小学生4～6年生を対象にした夏休みの自由研究をつくるワークショップを5日間行いました。子どもたちがボランティアスタッフと共に答えを探しながら、模造紙に思い思いの答えをまとめていきました。鋭い視点で、個性豊かなまとめ方にスタッフも驚いていました。「原爆というこんなに恐ろしいことを人間が考えていたんだということを知ることができました。繰り返さないようにしたいです。」という感想を子どもたちからいただきました。



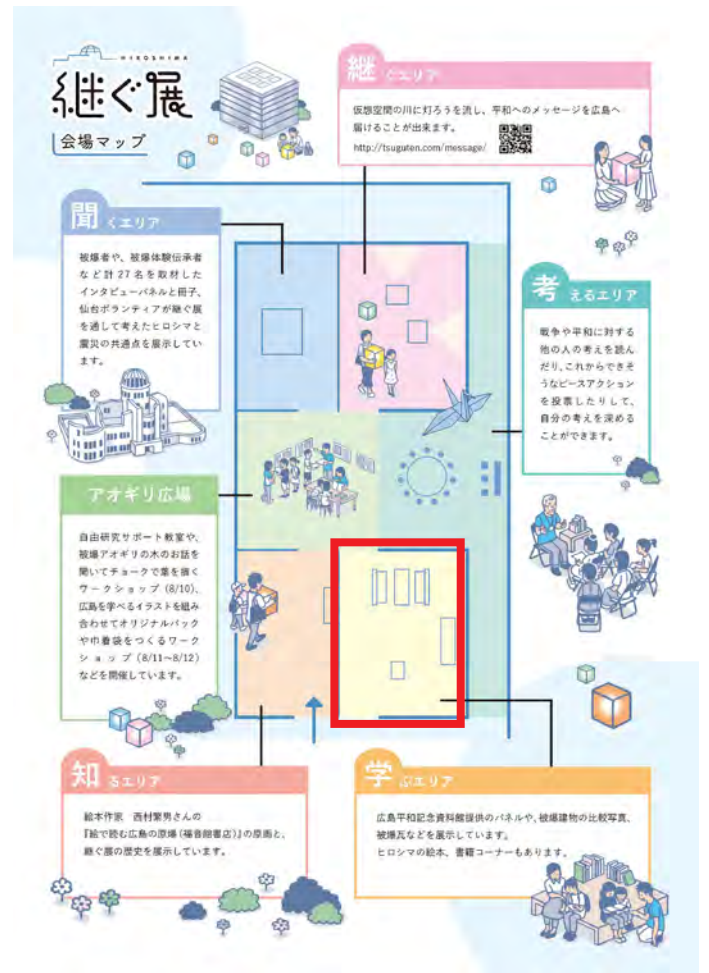


仙台北展会場（イベント）

8/13（月）～8/15（水）

被爆体験伝承者 青木 圭子さんと展示をまわろう

仙台と広島を行き来されている被爆体験伝承者の青木圭子さんと展示を回るツアーを2日間開催しました。仙台で暮らした経験のある青木さんの語りに地元の方々は共感され、親近感を持たれていたようでした。質疑応答を挟みながら、終始穏やかな雰囲気で行われていました。





メディア掲載



新聞

- 中国新聞社 (2/28 朝刊、7/30 朝刊)
- 朝日新聞仙台総局 (8/7 朝刊、8/12 朝刊)
- 読売新聞東北総局 (8/10 朝刊)
- 河北新報社 (8/8 朝刊、8/12 朝刊)
- 愛媛新聞社 (8/27 朝刊)
- 日刊自動車新聞 (8/9)



テレビ ラジオ

- RCC ラジオカー (8/6)
- 仙台放送 PRIME NEWS (8/10 放送)
- NHK 仙台放送局 てれまさむね (8/10 放送)
- TBC 東北放送 N スタみやぎ (8/10 放送)
- J:COM (8/14 放送)
- KHB 東日本放送 (8/14 放送)
- NHK ラジオ第1【ゴジだっちゃ!】



情報誌

- 季刊 まちりよく vol.31
- 情報誌 りらく 8月号



WEB

- 広島大学ウェブサイト
- 東北学院大学ウェブサイト
- キッズイベント
- アーティスト × こども
- JR おでかけネット
- 子供とお出かけ情報「いこーよ」
- ウォーカープラス
- オールイベント
- 学研キッズネット
- じゃらん
- goo 地図
- Yahoo! ロコ
- えきねっと
- 朝日新聞デジタル
- ALL EVENT
- 他多数





スタッフの感想

継ぐ展



初めてこのボランティアを知った時、まだ何ができるのか、留学生という立場で他の方々とうまく交流できるのか、少し心配していました。しかし、現場に着くと、不思議と順調に進みました！
自分にとって、このような活動を参加するのは、一つのチャレンジでした。実際に参加すると、ただ楽しかったと感じたばかりではなく、新しい友達ができたと嬉しさと、「平和」という言葉への理解が深くなりました。被爆者の川本さんのお話を伺い、8月6日に平和記念公園で見て、聞いて、今までにない感じができたと思います。
それは「平和の祈り」です。これは、自分なりの「継ぐ展」に対する理解です。戦争の経験者だけではなく、自分たちも、10年、100年後も平和を守ろう、ということを継いで伝承できたら、と思っています。

広島大学 大学院教育学研究科 M1 馬達

継ぐ展に参加して、戦争を体験していない私たちがどれだけ平和の大切さ広島で起こった出来事を伝え続けていけるかがとても大切なことがよく分かりました。

沢山の人が平和記念公園にきて平和を祈っているのにまだまだ世界中が平和になるには程遠くて、それでもこんなに平和を願ってくれている人たちがいて、とても力強い仲間たちだと感じました。継ぐ展を通して、たくさんの考える機会を与えてもらったのではないかと思います。来年もぜひ参加したいと思います！
貴重な体験ができて本当によかったです！

広島大学 文学部 1年 吉原 光

私は今回初めて広島を訪れ、自分の目で原爆ドームを見ることができました。これまでメディアなどを通して見て、感じたものとは全く違うものを感じました。まさに自分が立っているこの場所で、あの日多くの人々が一瞬にして犠牲になり、そして今でも苦しんでいるのだと感じました。

広島では被爆者の方の体験談や、継承活動をしている方々にお話を伺うことができました。印象に残っているのは、「人の体験を知る・学ぶことのほかに、語れなかった人がいるということも忘れてはいけない」という平和資料館学芸員の土肥さんの言葉です。

“語れなかった人”の存在を考えたことは一度もありませんでした。二日間で多くのことを学び、改めて平和記念公園を歩いた時、自分が今立っている場所に70年前は普通の生活があり、もしかしたら今でも続いていたのかもしれないし、この川であの日多くの人々が苦しみ命を失っていったのだと思うと、どれだけ今の日常が幸せなことなのかを実感させられました。

宮城学院女子大学 3年 千葉 夏希



来場者の感想



あの日のことは二度と語りたくないと思ったけど、今日ここにきて誰かに伝えたいと思いました。

広島出身 仙台在住 90代 男性



新聞で企画展を知り、非常に感銘を受けて来場しました。語り継ぐことに焦点を向けていることもよいし、体験的に感じさせるような見せ方も素晴らしいと思います。こんな企画ができる若者たちがいて、誇りだと思いました。来場して本当によかったです。ぜひ今後も続けてほしいと思います。

元小学校の校長先生 男性



昨日拝聴した被爆者の梶本さんと絵本作家の西村さんの言葉ひとつひとつが、胸に深く刻まれました。

73度目の8月に、仙台市で意義ある企画展を開催していただいたことへ感謝いたします。

「原爆」、「戦災」、「震災」。私たちは、時代や場所こそ違え、災厄を経験した人たちの「止まった刻（とき）」に耳を傾け、その声を伝えるという志と使命を持ち、共通の地点に立っていると思います。

開催期間中、幅広い世代の大勢の来場者が「戦争の愚かさ」と「平和の尊さ」に思いを巡らせ、多くの「伝え人」が仙台からも生まれることを願っています。本当に、素晴らしい企画展をありがとうございました。

イベント参加者 男性



娘は、継ぐ展から帰宅後も自由研究の完成に向けて資料を読み返したり、まとめ作業に夢中でした。

小学生なりに自分が感じて伝えたいことが多くあったようで、大きい模造紙に書き直しやっと完成しました。

今回、継ぐ展で見た事聞いた事感じた事は娘にとって大きいものになりました。

いつか実際に広島へ連れて行きたいと思います。

自由研究サポート教室参加 保護者 女性



スタッフの皆様をサポートしてもらったおかげでとても有意義な時間になり自由研究もこうして出来上がりました、ありがとうございました。これをきっかけに家族で平和の大切さを話す時間を持ち、私も大変勉強になりました。また近くで開催の際には参加したいとおもいます。

自由研究サポート教室参加 保護者 女性



幼い頃に、「つるにのって」という広島原爆の事を描いた児童書を読んでから、戦争について、平和について、何か出来ないかという思いがありました。結局何も出来ず大人になって、今は普通の会社員をしているのですが、継ぐ展を観に行ってから、やっぱり何かしたい、という思いが強くなりました。戦争体験を後世に残していく、伝えていく活動に携わりたいです。私にも何か出来ることはないでしょうか？

仙台市在住 20代 女性



震災の経験も重ねながら、「継ぐ」ことについてどうやっていけばよいかと考えていました。今回のイベントのメインビジュアルが非常に良いと思いました。メッセージ性が強すぎず、でも引き込まれるデザインでした。語り継ぐ人たちのインタビューパネルを読み、自分も何か行動したいと思いました。

仙台市在住 40代 女性

代表：久保田涼子

会場デザイン：及川誠 / CLiP HIROSHIMA

企画：野元綾希子、堀内崇子、アベケイスケ、大瀧美和

パネル印刷：株式会社自然堂、RIMO and COMPANY



【広報】

■イラスト：泉雅史

■フライヤー：Baobab Design Company（仙台）、叶丸恵理（広島）

■仙台 WEB サイト：西田優香

■広島 WEB サイト / とうろうに込めるメッセージ LP：

岡脇 由泰、天河巧、清水みのり、叶丸恵理

■自由研究 LP：山野良介、平野菜月

■SNS 広報：中島愛美、堀内崇子

■広報協力：高田 友紀、福岡理恵

■翻訳：築地海露穂、Shoko Nakamoto-Musumeci、Anthony phillip avila、Jason Scotto Ford、中村友彦、馬達、崔傑、ENSIGN 合同会社

【企画・制作】

■夏休み自由研究サポート教室

ツールデザイン：アベケイスケ

消しゴムはんこ：津久井 智子

自由研究改訂：味村和哉、中川宏哉

アドバイザー：榎原泰一



■みんなの声・平和へのアクション

制作：大瀧美和、村瀬真帆、中山美嶺、瀬川暁子、西田優香、

田邊雄大、山下継太、五十嵐大樹、築地海露穂、森本 耕一、

福井克彦、小川歩美

協力：河野宏樹、谷口真里佳、福岡奈織、広島市立矢野南小学校

■とうろうに込めるメッセージ

WEB 制作：櫻井雄太、佐藤里紗、新地隆浩、築地海露穂、

藤井麻衣、杉山 彰啓

動画制作：甲賀智

音楽：鎌田まみ

NY 実施協力：Mitchie Takeuchi、Toshikazu Nagasaki、梨乃

■ヒロシマの記憶を継ぐ人インタビュー

取材：及川誠、野元綾希子、堀内崇子、久保田良枝、中島愛美、

本末 敬祐、岡本泰志、宮迫陽奈、門馬礼音、石川祥江、

千葉 夏希、富田あゆみ、HIROSHIMA SPEAKS OUT

文字起こし：岡本泰志、平松あゆ子、大瀧美和、中島愛美

WEB サイト：芦澤 綾子、本末 敬祐、福田 彩香、田丸俊樹

紙：大崎恵、五十嵐大樹

インタビュー協力：木村緋紗子、西村 宏子、兒玉光雄、土肥幸美、

山岡美知子、森 匡世

■被爆建物から見るヒロシマ写真展

写真：及川誠・山本早苗、広島平和記念資料館（所蔵・提供）

■『絵で読む広島の原爆（福音館書店）』原画展&ギャラリートーク

絵本作家：西村繁男

■広島原爆資料パネル・被爆瓦・資料展示

パネル：広島平和記念資料館

被爆資料：広島市

■ヒロシマと震災「継ぐ」について考える

制作：瀬川暁子、門馬礼音、石川祥江、千葉 夏希、

富田あゆみ、大久僚一、永野徹弥

■被爆者 梶本淑子さんとお話しよう

被爆体験証言者：梶本淑子

企画協力：CLiP HIROSHIMA

■被爆アオギリの木のお話を聞いてチョークで葉を描こう

ストリートペインター：松本かなこ（路上芸術祭実行委員会）

読み聞かせ：芳晴

■被爆体験伝承者 榎原 泰一さんと展示をまわろう

被爆体験伝承者：榎原 泰一

■被爆体験伝承者 青木 圭子さんと展示をまわろう

被爆体験伝承者：青木圭子

■広島を学べるイラストを組み合わせるオリジナルバックや巾着袋をつくろう

協力：株式会社デイズ（ライブプリント）

津久井智子（消しゴムはんこ提供）

■アニメ映画「この世界の片隅に」上映会

協賛：広島トヨペット株式会社、あいおいニッセイ同和損害

保険株式会社、三菱地所レジデンス株式会社、三井不動産レ

ジデンシャル株式会社、JR 西日本プロパティーズ、株式会

社トータテ都市開発、広島電鉄株式会社、一般社団法人

hitoto 広島タウンマネジメント



■「紙の恐竜の制作を通してヒロシマを伝えていく展」

トークショー

造形作家：亀井 由美子（カメイ造形研究会）

■「おりづると、ヒコーキ」川本省三さんにきく、ヒロシマのはなし

企画：福岡奈織、松本渚

共催：ひろしまジン大学

■会場マップ

デザイン：福井克彦

■アーカイブ

動画制作：水谷元

実施報告書制作：小菅奈穂子



【設営・運営】

■仙台会場

宮崎滋、宮崎良恵、門馬礼音、千葉夏希、富田あゆみ、野元綾希子、堀内崇子、及川誠、佐藤圭吾、瀬川暁子、大久僚一、山口 智之、永野徹弥、常田悠介、奥田剛、宮原恵美、宮本麻奈美、長谷川碧紀、中川宏哉、味村和哉、平松あゆこ、小山田美仁、福井克彦、奥本由利子、吉田由香、三浦洋人、菊地麻理子、漆田義孝、古田菜穂子、齊藤英成、松本かなこ

■広島会場

小川歩美、直井美紗希、藤江日菜子、中山 美嶺、藤岡香穂里、馬達、早瀬友葉、本末 敬祐、Russel Chidya、吉原光、彦坂桃花、呉原八重、堤中愛、岡本泰志、宮迫陽奈、荒木美彩子、Islam Md Ariful、菅野計馬、櫻井雄太、CLiP HIROSHIMA、株式会社ファンブ、株式会社デイズ、保田麻友



【Special Thanks（敬称略）】

広島平和記念資料館 学芸課・啓発課

広島大学

広島大学社会連携グループ 柳ヶ瀬祐規

広島大学関東ネットワーク 北池ゆかり、大高弘士、川村翔太、千野信浩、河野一博、永田周太郎

広島市文化財団 榎木敬太、牛黄蒼 豊

CLiP HIROSHIMA 石川 裕利

デジタルハリウッド STUDIO 渋谷、新宿、広島

デジタルハリウッド STUDIO 仙台 宮崎 滋、齊藤英成

灯ろう流し実行委員会 若狭 利康

横山英子

日下医院 日下美穂

泉美術館 山下道子

光仁会 梶川病院 梶川恵美子

Palabra 株式会社 山上庄子

株式会社メディアステーション 鈴木ヨシマサ、友部充貴

菅野利行、西村ミチ、佐藤広明、佐藤真理子、おのれいこ、

栗谷幸助、末永まり絵、廣木光一、廣木右子、岡本あき子、長井信吾、長沼美帆、根津薫平、原田小鈴、櫻井俊明、二宮昌世、武田康司

せんだいメディアテーク管理課 施設係 橋本直樹

新潟県光晴中学校 田村祐一様、伏見史朗

宮城学院女子大学 社会連携センター 亀谷 純

東北学院大学地域共生推進課 其田雅美

東北福祉大学 高橋 英彦

仙台市市民活動サポートセンター 平野 昭

仙台市役所生涯学習課 西山祥子

仙台市市民文化事業団 総務課 富田 小緒里

仙台市市民局協働まちづくり推進部 市民協働推進課 吉川 登
せんだい3.11メモリアル交流館 八巻寿文、石川倫代、飯川晃、田澤紘子

仙台市宮城野区文化センター 村上佳子

NHK 放送局 杉尾 宗紀、富岡 亮、野口真郷、中村俊介

中国新聞社 山本祐司

朝日新聞社仙台総局 平田瑛美

東北放送 笠原 豊

愛媛新聞社 桑原大輔

河北新報社 門田 勲、吉田尚史

